優秀賞

# 挑戦

高知工業高等専門学校三年（高知県）
川本　朝陽

自分はあまり文章を書くことは得意ではないが、あえてこの茶道エッセイに応募しようと思った理由は『新しい挑戦』をしたかったからです。

中学三年間茶道部でしたが、同学年が一人もいませんでした。高専に入ってからも同じく学年唯一の茶道部で、今は部長を務めています。高専には、一年生から五年生がいて中学の時よりも、部員が沢山います。だから今の環境がとても好きで、部員の皆と茶道をすることが楽しいです。

自分が茶道に出会ったきっかけは、祖母です。自分は、俗にいう『おばあちゃん子』でした。祖母はよくお抹茶を点ててくれました。祖母の好きな所は、自分より人のことを最優先に考えて行動する所で、始め自分に点ててくれたお抹茶には、祖母のそんな心の温かさを感じました。そして自分もお抹茶を点ててみたいと思い、何度か一緒に点てました。そういう祖母とのやり取りをきっかけに茶道というものが好きになり、中学生になって茶道部に入りました。それが、初めての挑戦だったのかもしれません。しかし茶道部に入って二カ月経ったある日のこと、自分の大好きな祖母が癌で亡くなりました。自分は、そのことを信じたくなかった。しばらくの間立ち直ることができませんでした。それでも茶道は続けました。

茶道の形は、季節が変わりゆくごとに変わっていくのも魅力のひとつです。例えば、お点前や使うお道具、お花。お稽古するごとに新しい発見があります。

そしてまた挑戦する機会も与えてくれました。今年、自分の発案で文化祭にて模擬店を出すことになりました。去年は、コロナの為外部の方が来られませんでした。ですが今回は、誰でも来ることができるので楽しみにしています。自分が模擬店の代表ということは、後輩だけでなく先輩達にも指示しないといけない。模擬店を成功させるには、お互いに支え合うことが必要です。困ったことがあれば仲間に頼る。声をかけ支え合うことで、一人でできないことも可能になると信じています。模擬店では、着物を着てお点前をします。来ていただいた方に、優雅な雰囲気で茶道の楽しさを知ってもらいたいと考えています。ゼロから自分達の力だけで築き上げていくのは、大変な労力と時間を要します。しかし、挑戦し終えた後は、『楽しかった』『やってよかった』ときっと、感じると思います。

何事も挑戦するには、勇気が必要です。そして最初は、不安で心が押しつぶされそうになることもあります。でも、やり遂げた後は、安堵感や達成感があります。今では自分にとっての生きがいになっているかもしれません。

今年で茶道を始めて五年目になる。率直に言うと、好きだからこそこんなにも長く茶道を続けられているのだと思います。中学生の時の部長とは違い、毎月書類を出したり、外部の先生を呼ぶのにも自分でメールをしたりする必要があります。それには責任感が伴います。自分の目標の一つに、人から慕われるようなになりたいということがあります。そのためにも、自分の仕事を全うしなければなりません。また、部員のことを一番に思い、一人でお点前できない一年生にも優しく教えて、茶道の楽しさを知ってもらいたい。大好きな祖母がそうであったように。

来年で、四年生になります。自分は進学すると決めているので勉強面でますます忙しくなり、茶道に接する機会が少なくなるかもしれない。これからも色々な挑戦が待っていると思う。失敗を恐れず何度も何度も立ち上がり挑戦し続けたい。